北見工業大学
KITAMI Institute of Technology

プレスリリース資料

令和４年２月２５日

報道関係者各位

国立大学法人小樽商科大学
国立大学法人帯広畜産大学
国立大学法人北見工業大学

三大学経営統合関連事業
地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座

このたび小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学の三大学では、地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座を下記の日程で開催いたしますのでご案内申し上げます。

本年4月に当三大学が経営統合することに伴い、地域社会の活性化に寄与する人財の育成等を図ることを目的とした社会人向けのリカレント教育プログラムを推進いたします。

本プログラムは、北海道の特性（産業・経済・社会の動向）に関する理解に基づき、地域の特性を活かした地域型DX活用ビジネス（デジタル技術を理解して、ビジネスの現場においてデジタル技術の導入を行う全体設計ができる人財＝“ビジネスアーキテクト”）の育成を目的としております。スタートアップ講座（2022年3月・3回）、本講座(2022年7月以降・15回）により構成されており、今回はスタートアップ講座のご案内となります。

つきましては、下記のとおり実施いたしますので、取材及び周知いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

記

第１回　ＤＸ時代のパラダイム転換と地域創成　－北海道における IoT デジタル化戦略の取組み－

日　　時：令和４年３月１１日（金）１８：３０～２０：００
実施方法：オンライン形式（Zoom会議システム）
講　　師：藤井　享 教授（北見工業大学）
内　　容：わが国では、内閣府が超スマート社会（SOCIETY5.0）を提言し、経済産業省がAI・IoT・VR・ロボティクス・5G等の最先端の情報技術を用いた「デジタルトランスフォーメーション（DX）」を進めている。一方で、北海道は、長期間に渡って深刻なデフレ状況が続いていることから、札幌経済圏への極端な人口集中と地方の過疎化、労働生産性の低さ、地域間の経済格差、総人口の減少、財政基盤の弱体化等が懸念されている。これに加え、コロナ禍における第３次産業の停滞等、今後も持続的な経済成長が困難な状況に直面している。以上のことを鑑み、本講義では、我が国のDX化の進展により社会がどの様に変革されるのか。そのパラダイム転換の概要を解説すると共に、今後、北海道の地域創生に向けた地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装に向けた課題点についての提言を行う。

第２講　大規模畑作で期待されるロボットトラクタの現状と課題

日　　時：令和４年３月１４日（月）１８：３０～２０：００
実施方法：オンライン形式（Zoom会議システム）
講　　師：佐藤　禎稔 教授（帯広畜産大学）
内　　容：本学と、ヤンマーとで共同研究を行っているロボットトラクタを北海道の畑作で利用できるようにするための研究事例の紹介。具体的には、馬鈴薯栽培でプラウ耕から収穫に至る一連のトラクタ作業を無人のロボットトラクタで作業できることを紹介する。
（受講に関しては、農業に関する基本的な知識が求められる。）

第３講　デジタル・トランスフォーメーションによるビジネスモデル・イノベーション

日　　時：令和４年３月１８日（金）１８：３０～２０：００
実施方法：ハイブリッド形式（Zoom会議システムと対面）
講　　師：近藤　公彦 教授（小樽商科大学）
内　　容：この講座では、デジタル・トランスフォーメーションがどのように既存のビジネスモデルにイノベーションをもたらすのかに焦点を当てる。パートIでは、まずSMACITと総称される革新的なデジタル技術を整理し、デジタル化の3ステージを紹介する。次にデジタル・トランスフォーメーションが伝統的なビジネスを破壊するデジタル・ディスラプションについて説明する。そして各種調査からDXの取り組みの現状と課題を明らかにし、DX推進のポイントを提示する。パートIIでは、DXによるビジネスモデルのイノベーションをカスタマーリレーションシップ、カスタマーバリュー、業務プロセス、および収益フォーミュラの4つの次元から捉え、デジタル・ビジネスモデルがもたらす競争優位を解説する。

申込方法

受 講 料：無料　※受講にかかる通信料等は自己負担となります。
受講環境：Zoom会議システムで受講
募集期間：令和４年２月２５日（金）～令和４年３月８日（火）
以下URLまたはQRコードから申し込みフォームにアクセスいただき、お申し込みください。
参加者には３月９日（水）以降、メールにて受講用のURLをお送りします。
【申込フォームURL】
https://forms.gle/YAHqZRBBpvYt2XH19

申込・問合せ先

〒090-8507　北見市公園町165番地
国立大学法人北見工業大学
リカレント教育担当　　藤井 享
TEL：0157-26-9545 / 090-8034-5406
E-mail：toru-fujii@mail.kitami-it.ac.jp

地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座

受講費: **無料**

受講方法: **ZOOM**

スタートアップ講座（2022年3月）

地域型DX活用ビジネスに興味のある方などどなたでも参加可能

本プログラムは、北海道の特性（産業・経済・社会の動向）に関する理解に基づき、地域の特性を活かした地域型DX活用ビジネス（デジタル技術を理解して、ビジネスの現場においてデジタル技術の導入を行う全体設計ができる人財＝"ビジネスアーキテクト"）の育成を目的としております。
スタートアップ講座（2022年3月・3回）、本講座(2022年7月以降・15回)により構成されます。
地域型DX活用ビジネスに興味のある方などどなたでも参加可能です。1回だけの参加も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

第1回　本講座のご紹介
DX時代のパラダイム転換と地域創生
−北海道におけるIoTデジタル化戦略の取組み−

3/11（金）　18:30～20:00

講師　藤井　享　教授（北見工業大学）

第2回　大規模畑作で期待されるロボットトラクタの現状と課題

3/14（月）　18:30～20:00

講師　佐藤　禎稔　教授（帯広畜産大学）

第3回　デジタル・トランスフォーメーションによるビジネスモデル・イノベーション

3/18（金）　18:30～20:00

講師　近藤　公彦　教授（小樽商科大学）

申込み・問合わせ先:
申込みは右記QRコードまたはURLにアクセス
URL　https://forms.gle/YAHqZRBBpvYt2XH19
又は以下担当者へ直接メールにてお願いします。
申込〆切:3月8日（火）
※参加者には3月9日（水）以降、メールにて受講用のURLをお送りします。

国立大学法人北見工業大学工学部地域国際系・藤井享宛
（北海道国立大学機構リカレント教育講座担当教員）
TEL:090-8034-5406/ E-mail: toru-fujii@mail.kitami-it.ac.jp

主催:小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学（北海道国立大学機構）

講義概要　スタートアップ講座（2022年3月）

地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座

●開講日時	第1回：2022年3月11日（金）18時30分～20時　オンライン形式（北見工業大学提供）
●講演テーマ	『地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装のための基礎講座』の概要紹介 DX時代のパラダイム転換と地域創生-北海道におけるIoTデジタル化戦略の取組み-
●講演者	北見工業大学　教授（社会連携推進センター長・工学部地域国際系長）　藤井　享
●講演者略歴	博士（学術）中央大学。1990年 株式会社日立製作所入社、営業企画、マーケティング、CS推進、営業教育関連業務に従事。2013年 国立大学法人群馬大学研究・産学連携戦略推進機構 客員教授（2015年迄）。現在、横幹技術協議会副会長、日本情報経営学会理事、地域デザイン学会理事他
●講演概要	わが国では、内閣府が超スマート社会（SOCIETY5.0）を提言し、経済産業省がAI・IoT・VR・ロボティクス・5G等の最先端の情報技術を用いた「デジタルトランスフォーメーション（DX）」を進めている。一方で、北海道は、長期間に渡って深刻なデフレ状況が続いていることから、札幌経済圏への極端な人口集中と地方の過疎化、労働生産性の低さ、地域間の経済格差、総人口の減少、財政基盤の弱体化等が懸念されている。これに加え、コロナ禍における第 3 次産業の停滞等、今後も持続的な経済成長が困難な状況に直面している。以上のことを鑑み、本講義では、わが国のDX化の進展により社会がどの様に変革されるのか。そのパラダイム転換の概要を解説すると共に、今後、北海道の地域創生に向けた地域型DX活用ビジネスの構想と社会実装に向けた課題点についての提言を行う。

●開講日時	第2回：2022年3月14日（月）18時30分～20時　オンライン形式（帯広畜産大学提供）
●講演テーマ	大規模畑作で期待されるロボットトラクタの現状と課題
●講演者	帯広畜産大学　教授　佐藤　禎稔
●講演者略歴	帯広畜産大学環境農学研究部門農業環境工学分野（農作業システム工学）農学情報基盤センター長 所属学会：農業食料工学会、日本農作業学会、農業情報学会、日本ロボット学会、ASABE（アメリカ農業工学会）
●講演概要	本学と、ヤンマーとで共同研究を行っているロボットトラクタを北海道の畑作で利用できるようにするための研究事例の紹介。具体的には、バレイショ栽培でプラウ耕から収穫に至る一連のトラクタ作業を無人のロボットトラクタで作業できることを紹介する。 （受講に関しては、農業に関する基本的な知識が求められる。）

●開講日時	第3回：2022年3月18日（金）18時30分～20時　ハイブリッド形式（小樽商科大学提供）
●講演テーマ	デジタル・トランスフォーメーションによるビジネスモデル・イノベーション
●講演者	小樽商科大学大学院商学研究科　教授　近藤　公彦
●講演者略歴	同志社大学商学部卒業、神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学。修士（商学・神戸大学）。岡山商科大学講師、助教授を経て、1997年小樽商科大学助教授、2003年小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（専門職大学院）教授。この間、米国ノースウェスタン大学大学院IMC学科客員教授（2005～2006年）。日本マーケティング学会理事
●講演概要	この講座では、デジタル・トランスフォーメーションがどのように既存のビジネスモデルにイノベーションをもたらすのかに焦点を当てる。パートⅠでは、まずSMACITと総称される革新的なデジタル技術を整理し、デジタル化の3ステージを紹介する。次にデジタル・トランスフォーメーションが伝統的なビジネスを破壊するデジタル・ディスラプションについて説明する。そして各種調査からDXの取り組みの現状と課題を明らかにし、DX推進のポイントを提示する。パートⅡでは、DXによるビジネスモデルのイノベーションをカスタマーリレーションシップ、カスタマーバリュー、業務プロセス、および収益フォーミュラの4つの次元から捉え、デジタル・ビジネスモデルがもたらす競争優位を解説する。

●問合わせ先（事務局）
国立大学法人北見工業大学工学部地域国際系・藤井享宛
（北海道国立大学機構リカレント教育講座担当教員）
TEL：090-8034-5406/ E-mail：toru-fujii@mail.kitami-it.ac.jp